

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上 13-6
評価実施期間：平成 27 年 7 月 1 日から平成 27 年 10 月 20 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060972 060872 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 27 年 8 月 1 日現在）

事業所名：長野市ひかり学園 （施設名）	種別：障害者支援施設
代表者氏名：理事長 寺田 裕明 （管理者氏名）園長 小池 英一	定員（利用人数）： 67 名
設置主体：長野市 経営主体：社会福祉法人長野市社会事業協会	開設（指定）年月日：平成 24 年 4 月
所在地：〒381-0103 長野県長野市若穂川田 557 番地 1	
電話番号：026-282-5394	FAX 番号：026-266-5030
ホームページアドレス： http://nagano-shajikyo.or.jp/nsjk/hikari/index	
職員数	常勤職員： 36 名 非常勤職員 19 名
専門職員	医師 非常勤 2 名 施設長 1 名
	保健師・看護師 1 名 非常勤 2 名 次長 1 名
	生活支援員 30 名 非常勤 11 名 書記 2 名
	栄養士 1 名 洗濯職員 非常勤 4 名
施設・設備 の概要	（居室数）個室 22 室 2 人室 31 室 （設備等） 体育館 1 室
	食堂 1 室 作業室 5 室 静養室 3 室 浴室 1 室

3 理念・基本方針

基本理念 長野市社会事業協会は、利用者の人としての尊厳を大切に、地域社会でゆとりと潤いのある、その人らしく、いきいきと自立した日常生活が送れるよう、利用者本位のニーズに合った福祉サービスの提供に努めます。
基本的視点 <ul style="list-style-type: none">私たちは、利用者や家族の声を大切に、利用者と対等な立場で信頼関係を築きます。私たちは、サービスの質の評価を行い、公正で良質かつ適切なサービスを提供するよう努めます。私たちは、地域やその他の関係機関と連携し、より充実したサービスが受けられるよう努めます。私たちは、サービス内容の情報提供を行い、個人情報適正に取扱い、事業運営の透明性の確保に努めます。私たちは、専門性を高めるため、常に研鑽し、資質の向上に努めます。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

日中活動は障害特性に応じた5つのグループ体制の中で創作活動・作業活動・健康運動・理学療法・スノーズレン・クラブ活動を取り入れた支援をしています。
また、地域での社会貢献として公園のゴミ拾い等を実施したり、地域行事に積極的に参加するとともに、利用者の地域移行に向けて就労施設への見学・実習・グループホームでの宿泊体験等の支援を行なっています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数	今回初受審
------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

< ひかり学園と地域は、双方向的な関係を築いている。 >

ひかり学園と地域とのかかわりは、「地域社会でゆとりと潤いのある、その人らしく、いきいき」という法人基本理念を反映している。利用者は地域の行事に積極的に参加し、また、施設での交流会や行事に多くの地域住民が参加している。

加えて、施設の体育館は、ほぼ毎日地域の方達が利用し、地域行事には駐車場が開放され、設備面においても施設と地域の方との双方向的で良好な関係が維持されている。

ひかり学園の利用者にとって、地元地域は社会生活への学びの場ともなっている。

< 服薬管理体制の工夫による利用者の安全確保 >

利用者は、決められた食事時間内であれば、自分のペースで自由に食堂に来て食事を楽しんでいる。このような自由な雰囲気のある食事を行うために、服薬担当者を配置し、服薬業務に専念し、誤薬や飲み忘れがないよう配慮している。

また、夜勤者業務表や日勤責任者業務表に、内服や外用薬も含めて担当、留意点が明記され、体調不良時や誤薬等の事故対応は周知され、看護師と連携しながら支援している。ここに至るまでに、ヒヤリハット等の分析結果報告を役立て改善を重ね、確実な実施方法を確立している。この服薬管理体制により、集団生活ではあるけれども利用者一人ひとりに合わせた自由な生活を支援し、利用者の健康と安全が守られている。

< 法人の持つ福祉サービス事業所との情報を共有と利用者支援 >

所属する法人の中に「老人施設」「グループホーム」「重度の身体介護に対応できる障害者支援施設」そして、「相談支援センター」など、多くの種類のサービスを提供できる施設がある。

これらの施設では、職員の定期的な移動や共通の支援ソフトによる情報の共有化が図られている。そのため、利用者の地域移行のニーズや身体状況の変化に対し、複数施設での支援体制が整えられており多方面で利用者を支え、将来に対する安心に繋がっている。

特に改善する必要があると思う点

< 利用者記録の工夫 >

個別支援計画から日々の記録までを一括で管理するパソコンの支援ソフトを施設内のみならず、法人全体で導入したことにより、効率的かつ正確な情報の管理と共有化が出来ている。

しかし、個別支援計画や日々の記録に利用者や支援者の「思い」や課題の裏にある「背景」が深く反映されているとは言い難い。この事は、支援ソフト導入責任者も課題として認識しており、現在検討し、日々改善を行っているとのことである。

今後、現状の課題を踏まえ、日々の「出来事記録」ではなく、利用者・支援者双方の「思い」「願い」「夢」が実現できる「個別支援計画」や「サービス提供記録」となることを期待したい。

< 利用者の重度化を見据えた設備の充実と質の向上 >

利用者の高齢化、身体機能の低下に伴った施設整備が追いついていない。利用者特性と多様化に伴う新たなニーズへの支援と高齢化による身体介護が混在し、指定管理移行の法人の施設整備計画や質の向上の課題が見受けられる。

施設も課題と考え、介助利用者の特殊浴槽を導入する浴室の改築計画はある。日々のケアに職員の負担も多く、ケアの質の向上や車椅子対応の設備等、学園全体の職員の意見を汲んだ改修計画の充実が早急に望まれる。

< 建設的なコミュニケーションの強化 >

利用者の重度・高齢化、障害特性に対する様々な支援増加、地域移行の支援等、施設に求められる支援が増加、複雑化する中、管理職と一般職員との間で意見の相違が少なからず見られ、施設全体で問題・課題を共有できているか疑問を感じた。

日常業務において、専門職や部門を超えて協力しあう仕組みの見直しや構築により、さらに機能的に進まれることを期待したい。さらに、職員の意見を汲み取る仕組みの見直しや円滑化を図り、質の向上に向けてお互いの意見に耳を傾け、協力し合い、課題へ取り組むことに期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

評価対象 1 福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象 組織の運営管理(別添 1)
評価対象 適切な福祉サービスの実施(別添 2)

8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添 3 - 2）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）

平成 27 年 10 月 28 日記載

今回、御指摘いただいた、利用者の重度化、高齢化に対するハード・ソフト面の課題につきましては、関係機関と協議しながら施設整備を進めるとともに、常に基本理念に立ち戻り、情報を共有し、全職員が一体となって解決に向け取り組んでまいりたいと思います。

また、当学園が行っております、地域の住民との交流活動などを高く評価していただきありがとうございます。今後も、積極的に地域の行事に参加し、また、地域の皆様が多数ご参加いただける施設のお祭り等を実施し、地域との更なる良好な関係を築いてまいりたいと思います。